

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立玉島小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を軸とした授業改善で不十分な部分があった。クラスや教科によってばらつきがみられた。 ・いじめ問題への取組では、チームで素早い対応がとれ、大事には至らなかった。未然防止につながる確かな学級経営が全クラスで必要である。 ・生活科・総合的な学習の時間（玉島学）やサークルクラブを中心とした小中・小小・地域連携学習を有効に活かすための計画的な実践が足りなかった。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	<p>“たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成 ～豊かでたくましい心と体の育成と確かな学力の定着をめざして～</p>
----------	--------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業改善を進める。 ②集団づくりと特別支援教育の両視点から児童を育てる。 ③地域のよさを活かした豊かな体験活動を行う。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	主な担当者
---------------	--------	-------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・マイプランに基づいた授業実践を共有することで、取組の促進と改善を図る。	A	・全職員で「主体的」「対話的で深い学び」になるよう1時間の授業を大切にできた結果、成果指数では、「学習内容の定着に向けた授業づくりに努めている」が83%であった。県学力・学習状況調査の結果も前年度より向上した。	A	・アンケートや学習状況調査の結果から先生方や児童の努力が感じられる。	行徳 田原
	○学習内容の定着に向けた単元や1単位時間を見通した分かりやすい授業の実践	○「授業を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童70%以上	・唐津市「学力向上アクションプラン」の実践を図り、深い学びへつなげる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。	B	・アクションプランの活用や校内研究での実践の共有によって、「授業を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」と回答した児童は約85%に至り、目標を上回った。グループワークのポイントなど今後も、職員間の情報交換や研修を行う。	B	・コロナの影響がありあまり授業をみることができなかったが、授業を見たときに、対話を通して友達の意見を聞き考える場面を増やしてほしいと感じた。	田原 佐伯
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級力アンケート「友達を支える力」「安心を生む力」の項目において肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学級力アンケートを年5回実施し、結果を目に見える形で児童へ返す。 ・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出し、コメントを書く。 ・ここにこ集会(人権集会)を年間5回実施する。	B	・学級力アンケート「友達を支える力」において80%を越えたのは、6クラス中6クラス。「安心を生む力」においては、6クラス中4クラスであった。学校全体としては、(支え合い・感謝・認め合い)は向上してきたが、(尊重)については向上の余地があると言える。	B	・自問ノートや学級力アンケートなど様々な取組やその結果に学校の意欲が伝わってくる。	宗 中野
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせやいじめ対応に関する研修会(長期休業中)を実施する。	B	・玉島っ子アンケート等で挙がった事案に対して、関係する児童に聞き取り等を行い、迅速な対応を図った。また、事案について全職員で共通理解を行ってきた。 ・「いじめや子ども間のトラブルに迅速に課題解決に取り組むとともに、楽しい学校づくりに努めている」の項目に対し、よくあてまると回答した教員が92%だった。	A	・玉島小は、児童数が少ないこともあり児童一人一人をよく理解されている。今後も未然防止と共に早期発見に努めてほしい。	岩村 永瀬
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)70%以上	・学校行事や授業を通して、夢や目標について自ら考えさせる場面を設ける。 ・体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	・「100%の児童が、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をすることができた。 ・100%の教職員が、夢や目標の実現に向けた教育に取り組んだと回答することができた。	A	・100%の児童が、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をすることができた。 ・100%の教職員が、夢や目標の実現に向けた教育に取り組んだと回答することができた。	B	・将来の夢と言われると難しい、小さな目標達成の繰り返しから将来の夢を目指していくことは有効だと感じる。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で外での遊び、運動やスポーツを行う時間が1週間で300分以上の児童70%以上	・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。 ・縦割り活動のレッツプレイに取り組み、体を動かす機会を増やす。	A	・運動に関するアンケートによると、授業以外で外での遊び、運動やスポーツを行う時間が1週間で平均300分以上であった。 ・100%の教職員が、子どもの体力向上に努めていると回答することができた。	A	・多くの児童が外で遊んでいるということを知り安心した。	松門 中野
	②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・給食時間の放送を活用して、食事の大切さ等について、日々考えながら食事するよう促す。 ・保健だよりや給食だよりを発行する。	A	・90%の教職員が、望ましい食習慣や自己管理能力の育成に努めていると回答した。 ・朝の健康観察では、朝食欠食率5%以下、給食残菜率もほぼ0%であるなど、児童は食事の大切さを感じながら生活できている。	A	・2年生は、1年生の時から見ているが、身体や言動に著しい成長を感じた。食事の大切さを理解し、給食も残さず食べている点が素晴らしい。	松門 岩村
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・平日18:30施錠を目指す。	B	・学校閉庁日の設定や長期休業中の当番勤務の廃止などを行い、教職員の授業準備時間を確保することで、児童と関わる時間を増やすことができた。定時退勤日は、まだ過ぎてしまうので、具体的な取組を再検討したい。	B	・コロナの影響で消毒など仕事が増えている部分もあるのではないかと感じる。	教頭 橋本

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・生活打ち合わせ、ケース会議等の開催、情報共有をする。	A	・特別支援に関する専門性が向上した「思う」教員が75%、「少し思う」教員が25%と、全員が肯定的な意見を持つことができた。 ・本校児童の実態に合わせた研修会を実施することができた。	A	・個々が学ぼうという意識を持ちながら、チームで対応しているところが向上の要因になると感じた。	力武 門川
○開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携	○地域人材を活用した生活科・総合的な学習の時間(玉島学)を年間1回以上全クラスで実施	・玉島学で、全クラスで地域人材を活用する。	B	・今年度は、コロナウイルス感染症の影響で人との交流が制限されることが多かった。そのため、外部人材の活用計画が立てにくく、活用できない学年があった。地域人材を活用した授業では、学習に深まりが見られた。	A	・今年度は来校する機会が少なかったが、学校からの便りを見ると、学校の様子が良く分かった。	行徳 教頭

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・本校の課題と取組について、校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。今年度は、コロナウイルス感染予防のために対話活動が制限されるなど困難な部分もあったが、どの学級もグループワークを取り入れたり、単元計画やめあてを明確にしたりしながら授業を進めたりすることが多くなっている。次年度は、児童自身が更に目的意識を持って話し合いを進め、「授業を通して自分の考えを深めたり、広げたりしている」ということを自覚しながら学ぶことができるようにしていきたい。</p> <p>・生活打ち合わせやケース会議などを行い、児童について全職員で情報共有しながら支援を行ってきた。玉島っ子アンケートを使い個人の声を大切にしながら、「学級力アンケート」を使って学級としての集団の力を高めてきた。次年度は、その有効活用について実践し、更に集団づくりを行ってきたい。</p> <p>・今年度は、様々な場面で地域との交流が少なくなってしまうが、低学年の生活科やみかん学習など体験活動を行うことができた。次年度は、地域人材を活用しながら学習を進め「玉島学」の学びを深めていくとともに、地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。</p>
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------